

「新規細胞およびその作成・培養関連技術に関する特許戦略」

【日時】8月20日（火）10：00～17：00、

【場所】日幸五反田ビル8F 技術情報協会セミナールーム

【演者】

小林隆嗣弁理士（ユニアス国際特許事務所）

「新規細胞およびその作製・改変・分化制御技術に関する特許戦略」

藤井康雄弁理士（はるか国際特許事務所）

「培地・添加剤・培養条件に関する特許戦略」

秋葉 恵一郎会員（MOT-IP）

「細胞保存技術をめぐる各社の特許～特許戦略を練るなら基本は原点回帰～」

【講座主旨】

再生医療を下支えする「細胞の保存技術」分野では保存液、保存機器、保存方法等で多くの研究成果が生まれ、数多くの特許出願がなされている。

細胞を凍結保存する場合、水分子が氷結すると細胞膜が傷つき、致命的なダメージを受ける。これを防ぐために、試料に凍結保護剤（e.g. DMSO）を添加し、結晶化を抑制し細胞をガラス化状態で保存する。しかし、凍結保護剤には細胞毒性があり、保存した細胞が組織へと分化する可能性もあるため、新たな凍結保存法が求められている。

細胞の保存機器等については、凍結保存作業を容易かつ確実に行える装置、低コストかつコンタミネーションを防止する保存装置、単純でコンパクトな細胞培養容器、運搬用容器も求められている。

本技術分野で世界の先頭に立つことを目指すならば、特許戦略に工夫が必要である。経験・勉強を基にした演者のお話しが、皆様のお役にたてれば幸甚です。

以上